

ペットの家族化の進展とその帰結

——ネットモニター調査による考察——

山 田 昌 弘*

Familiarization of Pet in Japan: From an Internet Research

YAMADA Masahiro

Nowadays, more and more people consider pet as family in Japan. I name this trend as 'familiarization of pet'. Behind the issue, there are two trends. First the number of single people (who have no spouses) has been increasing in Japan thanks to the increase of unmarried rate and divorce rate. Second trend is about intimacy, people who want to feel 'pure' intimacy but don't feel with human family member. So I think people who want to feel intimacy but don't feel with other people select pets as objects of intimacy.

I conducted an internet survey about pet owner's intimate life.

According to the survey, many pet owners (esp. dog and cat owners) feel intimacy with heir pet. Especially singles and married people who don't get along with their spouses tend to make intimate relationship. So, familiarization of pet can prevent increasing single people from feeling isolation.

キーワード：親密性，ペット，家族ペット，独身者の増大，家族の主観的定義，非人間との親密関係

【目次】

1. ペット家族論の主題
2. ペットの家族化をめぐって
3. ペットとの親密関係に関する調査
4. ま と め

* 中央大学文学部教授

1. ペット家族論の主題

筆者が、「ペットを家族とみなして関係を築くこと」、すなわち、ペットの家族化という現象を指摘し出版したのは、1989年『ジェンダーの社会学』（江原由美子他、新曜社）の一節「家族の定義をめぐって——ネコは家族か？」の中においてである。そこでは、家族の範囲が曖昧になり「主観化」していることを論じ、ペットを家族として扱う人々が出現していると論じた。年配の研究者からはふざけるなど罵られることもあったが、それ以降、大規模な質問紙調査を行う度に、「ペットを家族と思うか」「ペットと親密な関係の有無」を質問紙に加えており、おおむねその割合は上昇している。

この30年の間に、ペットの家族化は日本社会に浸透し、受け入れられているようにみえる。ペットを家族のように扱うとは、代替不可能な存在として、その幸福に責任をもち、親密な感情を抱くという近代家族が設定する家族概念に合致した存在として、ペットが選ばれていることを意味すると暫定的に定義しておく。

日本社会で、ペットの家族化が進む背景には、「家族形成の困難」と「親密性の変容」という2つのトレンドがある。

1990年代以降は、未婚化、少子化、離婚増大、高齢化が進む。その中で、標準的な核家族（夫婦＋未成年の子）を形成し維持していくことが困難な人々が増加する。筆者が2003年に実施した「ペットを家族とみなす人々」9名に対するインタビュー調査では、ペットをまるで恋人や子どもであるかのような語りがあった。未婚者、離死別独身者、子どもがいない夫婦、子どもが巣立った高齢夫婦が増えている中、その足りないと思われる部分を埋めるような形でペットが入り込んでいることを示唆している（山田2004）。

2つ目のトレンドは、親密性の変容である。ギデンズは、制度的な役割関係であったパートナーシップ関係は、現代化と共に「純粋な関係性」に置き換わると論じた（Giddens 1992）。しかし、野口裕二は、共同性と親密性を分け、日本社会では家族関係は必ずしもギデンズの言うような親密性を必要としないと論じる（野口2013）。家族関係では十分に満たされない親密性の対象の一つとして、ペットが選ばれているという側面がある。

標準的家族を形成し親密な関係を築いている人でもペットの家族化が生じているわけで、そうではない人との関係性の違いがある可能性もある。

更に、ペットを家族とみなす人の増大によって、社会の中でのペットの位置づけの変化も生じている。ペットにかかる手間やお金が増え、「ペットを飼える層」と「飼いたくても飼えない層」に分かれる兆しもある。これは日本の少子化と同様のロジックが、ペット飼育でも始まる兆しとも言える。

本稿では、ペットの家族化の実態を、以上の観点から整理し、その現状を質問紙調査の結果

をもとに示していきたい。

2. ペットの家族化をめぐる

2-1. ペットの家族化と主観的家族論の進展

1980年代、筆者は、家族定義を研究する中、「ペットを家族とみなす」という現象が「家族の変容」を表す一側面として重要だと気づいた。過去の論文の一節を引用しよう。

「……従来の定義では家族とみなせない関係（同居する同性愛者、ペットと飼い主）が、家族と意識されたり、境界がはっきりしない関係（単身赴任、親夫婦と子夫婦の近居、離婚した両親と子どもの関係など）が現れている。これらの家族現象を、定義に合わないから家族でないもしくは病理として切って捨てたり、無理に境界を定めてしまうと、現代社会における家族現象が分析できないのではないだろうか」（山田1986, 53頁）

1987年、学会（第20回家族社会学セミナー）で「ペットを家族とみなす人がいる」と発表する機会があった。すると、年配の研究者から「ふざけるな」と面罵されたことがある。その後、「人々は家族の範囲は主観的に決めている」という分析軸で、調査研究を行ってきた。教科書として書いた『ジェンダーの社会学』の中で、「家族の定義をめぐる——ネコは家族か？」という節で、「愛情を込めて育てているペット」を家族とみなすかどうかという調査の結果を示した（家族だと思う36%、どちらかという家族だと思う29%）（1998年8月長野県S町, 160サンプル, 訪問回収）。

そこで得られた結論は以下の通りである。ある関係を家族とみなす条件とする要素は、多様であり、その中から選んで「一は家族だ」と主観的に線を引いている。要素としては、血縁、法律婚、同居、コミュニケーション、愛情関係などがあり、生活を共にして愛情があるという観点から、ペットを家族とみなしている（江原他1989参照）。

その後、主観的な家族定義論に関して、日本の他の社会学者も論じるようになり、「ペットを家族とみなす」というレトリックを、言説論、構築主義の視点で田淵六郎、木戸巧が論じている。

田淵六郎は、レトリカル・アプローチを「言説を（中略）何かを社会的に達成するために構築されるものとみなす」と定義する（田淵1998, 78頁）。その視点で、犬を飼っている人へのインタビュー調査に応用して分析する。田淵は、飼い主が、自分と犬との関係をペットという言葉を使用することを避け、家族（同然）であると同時に、「人間の家族とは違った意味での家族」と主張する点に注目した。そこで、用いられるレトリックは、「自分が家族と呼びたい対象を念頭に置き、その対象を家族と呼ぶように家族という言葉で定義する」というレトリックであった（田淵1998, 77頁）。

また、木戸功は、『概念としての社会学』の中で、家族とペットとの関係を例に引きながら「家

族」を「成員カテゴリー装置」と捉え、次のように述べる。「彼らが家族であると理解可能であるのは、それらの関係を「ペット」と「飼い主」という関係対象とそれに結びついた「飼育する／される」といった活動のあり方によってではなく、私たちが常識的に家族を構成する者とみなしている成員カテゴリーとそれに結びついた活動（「ともに生きる」など）によってであるといえるだろう」と述べている（木戸 2010, 125 頁）。

レトリックを使うことによって達成されているものを、田淵も木戸も明確に論じているわけではないが、私は、飼い主が「ペット家族とみなしたい」という欲求であると解釈する。つまり、木戸が単に役割ではなく、そこに「ともに生きる」（相手である）という言葉で表現したように、「自分にとってペットという家族（のような対象）が存在している」こと自体が、飼い主にとっての価値になっているのではないかと考えることができる。

私の議論（山田 2004）、2003 年に行ったインタビュー調査、家族としての親密関係の語りからみてみると、飼い主は、理想的な（家族の）親密関係を投影していると解釈できる。理想的な家族とは、理想的な配偶者、恋人（ペットは裏切らない）に留まらない。理想的な子ども（夫婦のつながりを確認するもの）、理想的な老親（献身的に介護する飼い主）、愛人（仲の良い家族がいても、それとは別にコミュニケーションする喜びを共有できる相手）だったりする。現実には家族がいてもいなくても、現実の家族との関係では、不足していると感じる「親密な関係」を見だし、体験しているのである。つまり、ペットの家族化という事態の背景に、「家族的つながり」を求める欲求があり、家族的なつながりは、親密な関係性と同等の意味をもつものとして理解されている。

では、親密関係と家族との関係はどのようなものなのか。親密な関係性はどのようなものなのか、順に考察していく。

2-2. 近代社会における「家族とみなす」という意味

(1) 家族の親密性構築の特権化と課題化

私は、近代社会において、「家族」の有無が、人々にとって決定的に重要となっていると論じた（山田 2005）。近代社会における重要な課題の一つが「親密関係の構築」である（もう一つは、経済生活の自立である）。

前近代社会、家族は親族の中に埋もれていた。経済生活においても感情生活においても、いわゆる核家族は、近代社会ほど重要な存在ではなかった。宗教や共同体が、アイデンティティを供給し、近隣の人々との生活が情緒的つながりを作り出していたからである（Aries 1960 = 1980, 山田 1994 など）。

近代社会は、家族と国民国家を同時生成したと考えられる。そして、公私が分離し、プライバシー領域の中心に家族が位置づけられる。これは、親密な関係が、家族の内部に閉じ込めら

れることを意味する。家族をもたない人間は「真の」親密な関係が存在しないとみなされるようになった。家族外との親密性はあったとしても、家族の愛情よりも下位に位置づけられる（例えば友情など）、もしくは、逸脱した形態（例えば結婚外の不倫など）とみなされる。つまり、家族の親密性の特権化が生じる社会でもある（山田 1994, 落合 1989 など）。近代社会の理想形は、家族の内部で親密欲求が充足される一方、家族外での情緒関係を抑圧することが求められる。

そのため、親密性が充足されるためには、家族が存在している必要がある。近代家族の理想では、子ども時代は親との関係で親密関係が予め与えられている。そして、成人後は、結婚し、配偶者を得て、配偶者との間で親密関係を作り、子どもが生まれればそれに加わる。つまり、成人後、親密欲求を充足するために家族を形成することが、近代人の課題となったことを意味する。

(2) 親密欲求とは何か

親密欲求を満たす関係を「親密な関係」と呼んでおくが、一口に親密欲求と言っても、多様な要素が含まれる。ここで、4種類に便宜的に分類しておく（図-1）。①アイデンティティ欲求—自分の存在を承認してもらいたいという欲求、これは、自分を個人として大切にされ必要と思われたいという欲求と言ってもよい。②コミュニケーション欲求、話を聞いてほしい、楽しく一緒に遊びたいなどコミュニケーションに関わる欲求をここにいれる。③ロマンティック欲求、情熱的に対象に恋い焦がれたいという欲求。④性的欲求（性的に興奮し、身体的な満足を得る）（山田 2019）。

近代社会は、全ての親密欲求を「1人の人間」で充足させるのが理想であるという信念が形成され、スタートした。これは、「ロマンティック・マリッジ・イデオロギー」、三位一体（愛と性と結婚の一致）イデオロギー、さらに、結婚における「性愛規範性」（ブレイク）などと言われてきた。つまり、結婚すれば、①それがかげがえのない関係となり、承認欲求が満たされ、②お互いにわかり合え、会話がはずみ、一緒にいて楽しく、③ロマンティックな気分になり、④性欲も満たせる相手を得られるという理想が共有されていた。

図-1 親密関係の4つの要素

親密な関係	<ul style="list-style-type: none"> ① アイデンティティの供給（承認欲求） （かけがえのない関係、自分を個人として大切に、必要にしてくれる関係） ② コミュニケーションの相手（わかり合える、一緒にいて楽しい） ③ 情熱的恋愛の相手（ロマンティックに恋い焦がれる） ④ 性的関係の相手（性的に興奮し、身体的な満足を得る）
-------	--

もし、現在のこれらの欲求が満たされない場合は、離婚してこれらの欲求をすべて満たすような別のパートナーを探して再婚すべきという意識につながる。そして、家族外で親密欲求を満たすことは、結婚外の恋愛関係を「不倫」と呼ぶように、逸脱で制裁が加えられるものと考えられてきた。

しかし、現実にそのような関係を結婚相手に持ち続けられるケースは、めったにないことが理解されるにつれ、親密関係を分散させたり、調達様式を多様化させ、家族の外でその欲求を満たすことが可能かつ逸脱とはみなされないようになりつつある。

親密関係の分散とは、親密関係を複数の対象に分けて充足させようとする試みである。例えば、性関係の相手は配偶者だけでもコミュニケーションの相手は子ども、ロマンティックな気分を満たす相手はメディア上のスターに投影するといった具合である。

調達様式の多様化とは、夫婦でお互いに親密欲求を満たし合う関係だけではなく、例えば「市場で親密性を購入する」ことも行われるようになる。これをイロウズは、冷たい親密性と呼んでいる (Illouz 2007)。

とはいえ、「親密性は家族で満たすべき」という意識は強く残っているもので、逆に、家族以外で作られた親密関係を家族と呼ぶ、という転倒も起きる。親しい友人を家族のような関係と呼ぶのは一般化している。そして、それが最も顕著に現れるのが、ペットとの親密関係なのである。

2-3. 親密関係論の展開

次に、親密関係論の立場から、アンソニー・ギデンズと野口裕二の議論を参考にして、ペットとの親密関係を考察してみよう。ギデンズは、現代化の視点から、そして、野口は日本社会の特殊性の視点と異なっているが、両者とも、親密性が役割関係から切り離される傾向に言及している。

ギデンズは、『親密性の変容 (Transformation of intimacy)』という言葉で、近代社会の夫婦の役割に閉じ込められた親密性から、現代西欧社会では、役割を離れたところに成立する新しい親密性に向かっていることを論じた。彼は、新しい親密性の理想的な形を「純粋な関係性 (pure relationship)」と呼び、お互いに選び合っていることだけで結びついていることが、親密性の新しい形だと強調した (Giddens 1992)。

また、野口裕二は、日本社会を分析するためには、共同性と親密性を分けて考える必要性を強調した。共同性とは、助け合いや無償のケアなど役割関係やお互いの責任意識で結びついている関係性である。一方、親密性は「お互いに自己開示できること」を想定している。日本社会では、家族は共同性の場であっても、家族関係が親密であるとは限らないことを強調し、家族関係がギデンズのいう意味での親密な関係ではなくても、それを問題とは捉えない人々が多

いと述べている（野口 2013）。

2つの議論に共通するのは、（生活上の）役割関係や共同性とは別のレベルに親密性があるという事実である。しかし、ギデンズは、親密性を重視しているがゆえに、役割で結びつく関係を等閑視するのに対し、野口は、共同性の実態である家族とは別のところで親密性が充足される可能性を示唆している。

ペットの家族化を考える場合、ギデンズのいう純粋な関係性や野口のいう自己開示に基づく親密性が経験されるのは、現代日本社会においては、ペットとの関係においてであるという可能性も示唆される。

2-4. 「非・人間」との関係性に関する理論的展開

では、ペットとの間での親密経験の特徴は何であろうか。

近年、人間以外の「何か」に対して関係性（特に親密な関係）を築くことが可能かに関して、いくつかの論考が相次いで発表されている。

焦点は「ペット（動物）」と「AI搭載ロボット」、それを組み合わせた「AI搭載ペットロボット」、更には「二次元キャラクター」「バーチャル・キャラクター」にまで議論の射程が及んでいる。

まず、相互作用論の理論家である片桐雅隆が、2022年に表した『人間・AI・動物 ポストヒューマンの社会学』で、「AIや動物は人間社会のメンバーになり得るか」という議論を整理している。そこでは、まず、様々なマージナルな例（障がいをもつ人など）を引用しながら、人間社会のメンバーとして認められるためには、自己性（固有の主観的経験）をもつこと、人格性（内省的な判断力）をもつことが求められていること。そして、動物は、自己性をもつが、人格性をもたないことを示した。また、「AIや動物との相互行為、理解は可能か」という議論を整理し、ネコは未来の予測に基づく選択ができ、実際に感情的役割を果たしている（相手を慰める等）点から、ネコとは役割取得が可能であることを示している。

続いて、佐藤嘉倫は、2022年「AIを備えたロボットは家族の一員になれるか？」という論考の中で、非・人間との親密関係の可能性を、「機能主義」の観点から論じている。佐藤は、家族と思える＝親密圏を作る2つの条件として、外見と会話力を挙げる。外見が人間に似ているほど、そして、会話が可能であるほど家族と思える可能性が増す。そして、独居高齢者の増大という現代社会の問題から出発し、独居高齢者が「愛情を注ぐなにものが必要」（佐藤 2022, 170頁）であり、「その代表がペット」となっていることを述べる。ただ、高齢者の場合は、ペットより先に亡くなるリスクがあるという課題があり、実際に年齢が高い人は飼えない。そのような人たちにAIロボット、ロボット・ペットが機能的に適合すると主張する。しかし、そのようなAIペット・ロボットは高価なので、階層による格差が生じることを述べている。

そして、「匿名希望」は、2020年「AIと性愛—AIと人は親密さを築くことができるか」という論文を著している。匿名希望氏は、AI搭載セックスロボットを想定して、「機械との親密な関係性を論じる。その議論は、動物との関係にも適応可能である。匿名希望氏は、まず、ハウスケスラーの愛の対象説を取り上げる。ハウスケスラーは、「パートナーから欲望され、体験を共有する」ことが上位の愛、つまり、愛情は対称的であらねばならない、だから「機械への愛は人間同士の関係よりも劣る」という議論を展開する。

しかし、匿名希望氏は「愛の関係性が個人の福利に対する充足の基盤は愛の対象の性質や能力ではなく、主体と対称の相互的なやりとりが行われる一連のプロセスに存している」という愛の関係基底説を主張し、ハウスケスラーを次の3点で批判する（匿名希望 2020, 196 頁）。①人間や動物に対する時でさえ、対称が意識や感情を備えているか確信できない。②人間同士の関係性の方が優れているという根拠はない。③ロボットとの関係から受ける福利（幸福感、欲求充足）は、人間からのものより劣っているという根拠はない。

AIに対する愛情や欲望がある場合、非対称関係であっても、そこに存在している親密性が劣っているとは、客観的に言えるわけではない。AIを動物に置き換えても、同じ議論を展開できる。

そして、これは、松浦優が、未婚者山田（筆者）を批判した見解と重なる。山田は、独身者が、動物やバーチャルな対象（スターやキャラクターなど）に親密性を感じたり、親密性を市場から購入する傾向が強いことを強調したのだが、松浦は、それは、人間同士の相互的な関係をそうでない関係より上位に置くという意味で、「対人性愛主義」と批判するのである。（松浦 2021, 81 頁）

ペットとの親密関係が人間同士の親密関係と異なっている点については、客観的にみれば多々ある。ただ、ペットとの親密関係で満足する人が現に存在している以上、その満足度に質的に差があるかどうかに関しては、社会学的に答えることはできない。また、ギデنزがいうような純粋な関係を志向した場合、現実の人間との間には、「功利的な動機に基づく役割関係」が入り込んでしまう。むしろ、ペットとの親密関係の方がより高度な親密性をもたらすという議論も可能なのである。

2-5. ペットの家族化の背景

ペットとの家族化、つまりは、ペットと家族的関係＝親密関係を築くことが一般化している理由として、家族で親密性を経験できないことがその背景にある。その理由としては、次の2つのロジックが仮説として考えられる。それを①家族の代替仮説と②純粋な関係性仮説と呼んでおく。

① 家族の代替仮説とは、未婚化、離婚が増大している中で、家族が存在しないケースが増

大した。また、家族が存在しても、仲が悪いなど家族との間に親密性が構築できないケースが存在している。その中で、家族の代わりとしてペットが選ばれ、親密欲求を満たすケースが増大した。

- ② 純粋な関係性仮説とは、親密性の基準が上がったことにより、ペットとの親密関係が積極的に求められるようになったというものである。家族や友人との親密関係があっても、それが純粋な関係であるとは限らない。利益に還元されない純粋な関係性を追求していく中で、ペットがそれに当てはまる対象として、選ばれているというものである。

具体的な調査をすることによってこの二つの仮説の妥当性を検討していく。

3. ペットとの親密関係に関する調査

3-1. 調査概要

ペットの家族化を考察するために、ペットとの親密関係に関する質問紙調査を行った。概要は以下の通りである。

『ペットとの親密関係に関する調査』

- ・2022年10月8-10日実施、ネットモニターサンプル調査、実査をマクロミル社に委託した。
- ・マクロミル社のインターネットモニターサンプル 2,225 ケース（全国）
- ・中央大学特定研究費助成（2022-2023年度）により実施

25-64歳対象、2020年の国勢調査を準用し、年齢階層、有配偶—独身（未婚、離死別）で割り付けてサンプリングを行った。その結果、次のようなサンプルを得た。

表-1 対象者サンプリング

		年齢			
		25-34	35-44	45-54	55-64
男性	有配偶	84	172	215	190
	独身	156	110	116	80
女性	有配偶	104	192	227	196
	独身	125	86	96	73

3-2. 基本属性

対象サンプルの基本的な属性は、表-2の通りであった。居住形態を同居家族をもとに、①「独居」（同居家族なし）、②「配偶者有」（子や親などと同居している場合も含む）、③「親同居独身」（配偶者なく親同居している場合、離別後子どもを含む場合も含む）、「その他同居」（配偶者、親以外と同居している場合）、の4類型に分けている。

表-2 基本的な属性 (%)

() は N-ケース数

学 歴	中学 1.9	高校 27.4	専門 13.6	短大 12.4	大学 38.8	大学院 4.9	その他 1.0
住 居	持家 (一戸建て) 51.6	持家 (集合) 13.7	借家 (一戸建て) 3.5	賃貸アパート 28.5	その他 2.7		
職 業	経営者 1.5	正規雇用 52.4	パート 16.7	自営・自由 6.0	無職 22.2	その他 1.6	
婚姻関係	既婚 (初婚) 56.2	既婚 (再婚) 6.0	未婚 30.3	離別 6.4	死別 1.1		
主な同居者	独居 17.9	配偶者 60.5	親 20.6	配偶者の親 2.9	きょうだい 6.2	未婚子 (18歳未満) 28.4	未婚子 (18歳以上) 16.2
同居別 4 分類	独居 17.9 (398)		配偶者有 60.5 (1346)		親同居独身 17.2 (382)		その他同居 4.4 (99)

3-3. ペットの飼育状況

まず、ペットの飼育状況をみてみよう。比較のために、2021年楽天リサーチ社が行ったデータを示しておいた(表-3)。

ペットを飼っている人は、ほぼ3割となっている。うち、犬もしくはネコを飼っている人は21.9%、それ以外のペットを飼っている人は8.2%で、中でも熱帯魚や淡水魚などの魚類が多い。

犬とネコの飼育割合に関しては、それぞれ13.3%、11.2%となり、楽天リサーチの数字とほぼ一致している。本調査では小型哺乳類や鳥類の飼育割合が多いのは、楽天の年齢層の幅が広いことに基づいていると考えられる。本研究では、ペットの家族化の代表例として、主に犬とネコとの関係を分析するため、その飼育状況をみると、犬もしくはネコを飼っている人は、21.9%。犬を飼っている人の5人に1人がネコも同時に飼育しており、ネコを飼っている人の4人に1人が犬も同時に飼育していることが分かる。

更に過去の飼育経験と、今後の飼育意向を聞いている(表-4)。子どもの頃は、犬が32.1%と最も多く、飼育経験がないものは5割を切る。成人以降では、犬が多いものの、ネコの割合も多いことが分かる。今後の飼育意向では、犬、ネコの順である。

続いてペットにかかる費用をみてみよう(表-5)。まず、犬とネコを飼っている人と、そうでない人では大きな違いがある。犬、ネコ以外のペットを飼っている人の半数は月1,000円未満である。一方、犬を飼っている人の中央値は5,000円-1万円、ネコのみの方の中央値は3,000円-5,000円と、犬の飼い主の方がお金をかけ、月5万円以上かける人も3.4%いる。

次に、犬、ネコ飼育者のみの飼育実態をみてみる(表-6)。

表-3 ペットの飼育状況（％，M.A.）

犬	ネコ	小型ほ乳類	鳥類	は虫類	魚類	昆虫	その他	なし
13.3	11.2	2.7	2.0	2.2	4.4	1.7	0.5	70.2
(犬のみ 10.7%，ネコのみ 8.5%，犬+ネコ 2.7% 犬 or ネコ 21.9%)								
*比較 楽天リサーチ調査（％，2021年，20-69歳，1000人，再集計）								
13.2	11.0	1.5	1.3	1.5	(6.8)	1.0	0.4	69.2

表-4 過去の飼育経験と将来の飼育意向（％）

*過去の飼育経験（％，M.A.）									
	犬	ネコ	小型ほ乳類	鳥類	は虫類	魚類	昆虫	その他	なし
子どもの頃	32.1	17.5	14.0	16.0	8.1	15.6	10.4	1.2	45.7
成人以降	21.1	15.6	8.7	3.9	4.4	9.1	3.4	0.8	58.0
*今後の飼育意向（％，M.A.）									
	20.0	15.2	4.9	3.0	1.7	3.3	0.9	0.5	66.9

表-5 ペットにかかる費用（％）

	1,000円未満	3,000円未満	5,000円未満	1万円未満	3万円未満	5万円未満	5万円以上
犬+ネコ	3.4	11.9	10.2	37.2	28.8	6.3	1.7
犬のみ	2.8	16.0	20.2	33.2	21.8	2.5	3.4
ネコのみ	7.9	26.8	23.2	27.4	12.6	2.1	-
その他	51.1	28.4	12.5	5.7	1.7	-	0.6

表-6 犬，ネコの飼育数（％）

	1匹	2匹	3匹	4匹	5匹	6匹以上	N
犬	83.9	11.8	1.7	1.3	0.7	0.3	(297)
ネコ	59.4	29.3	5.6	2.4	0.8	2.4	(249)

飼育数は，犬は1匹がほとんどであり，ネコは2匹以上が4割いる。

また，飼う場所の室内化も進んでおり，ネコは8割以上が完全室内，ペットだけで外に出るネコは1割に過ぎない。犬の場合も，3割近くが完全室内となり，屋外で飼うという習慣はほぼ過去のものとなっている（表-7）。これも，ペットの家族化現象の一側面と考えられる。

来歴は，犬とネコの差は大きく，犬は4分の3以上が購入したものであるのに対し，ネコで購入したものは2割強に過ぎない。拾ったネコも3割強いる。また，犬とネコ双方飼っている人に，「住み着いた」という回答が1割あり，犬を飼っていたところにネコが住み着いたケースだと推察される（表-8）。

表-7 飼育状況 (%)

	完全室内	主に室内	室内+外	家の外	その他
犬+ネコ	28.8	62.7	5.1	3.4	-
犬のみ	21.0	71.4	3.4	4.2	-
ネコのみ	82.1	7.3	6.3	3.2	0.5

注1：複数飼っている場合は、主な方

2：「完全室内」（外には原則出さない）、「主に室内」（飼い主と一緒に散歩したり、庭に放すことがある）、「室内+外」（ペットだけで外に出る（出す）こともある）、「家の外」（小屋、ケージ、庭などで飼っている）。

表-8 来歴 (%)

	購入	保護施設	譲渡（友人等）	拾った	住み着いた	その他
犬+ネコ	67.8	23.7	33.9	23.9	10.2	3.4
犬のみ	78.2	8.4	13.0	0.8	0.4	2.9
ネコのみ	21.6	22.1	28.4	31.6	6.3	4.2

3-4. ペットとの関係性

次に、ペットとのコミュニケーションをみてみよう。全ペットのデータが表-9であり、犬、ネコ限定のデータが表-10である。当然ながら、魚類や昆虫類に比べ、犬またはネコの方が身体的接触を含む濃密なコミュニケーションをするケースが多い。そこで犬、ネコを中心に考察する。

犬、ネコの飼い主の大部分が、ほぼ毎日、ペットに話しかけたり、スキンシップをしていることがわかる。また、同じ布団（ベッド）で寝ている飼い主も、ほぼ毎日 35.5%、数日に1回 10.7%と、日常的に一緒に就寝する人が5割近くに達している。別の調査で、夫婦で一緒にの布団で寝る人の割合は、約3割であること（山田昌弘の科研費による調査、2023年2月実施、未発表）を考えると、まさに、配偶者よりも親密にコミュニケーションをとる存在となっている様相が窺える。

続いて、犬、ネコの飼い主に限定して、男女別、同居家族別に、ペットとの身体的コミュニケーション（スキンシップ、同じ布団で寝る）をみてみよう（表-11）。男性より女性の方が、また、同居家族がいるより、1人暮らしの方がペットと濃密な関係を築いていることがわかる。特に、女性1人暮らしの8割以上が数日に1回以上、同じ布団で寝ているのは注目に値する。

次にペットとの親密関係意識についてみていこう。表-12にあるように、1)-8)、12)は肯定的な意識、9)-11)は否定的な意識を聞いている。特に、犬、ネコの飼い主の方が、肯定意識をもつ人が多い。

表-9 ペットとのコミュニケーション—全ペットの飼い主（％，N=663）

	ほぼ毎日	数日に 1回	週1 程度	月1 程度	年数回 程度
1) 一緒に散歩などに出かける	24.3	8.9	5.9	3.5	4.5
2) 一緒に旅行や遊びなどに出かける	3.2	3.2	5.3	7.7	16.1
3) ペット美容院などに連れて行く	2.4	1.5	2.6	14.0	13.4
4) 動物病院に検診や治療に行く	2.3	1.8	3.3	13.4	46.0
5) ペットに話しかける	72.5	5.9	3.6	1.2	0.6
6) ペットとスキンシップをする (なでたり, 抱いたり, ブラッシングする)	70.0	5.6	3.6	2.7	0.5
7) ペットとおもちゃなどを用いて遊ぶ	40.7	15.4	7.1	4.4	2.7
8) 同じ布団（ベッド）で寝る	26.5	7.8	5.6	3.2	3.8
9) いろいろしている時などにペットにあたる	2.1	2.6	2.4	2.4	4.1

表-10 ペットとのコミュニケーション—犬, ネコの飼い主限定（％，N=487）

	ほぼ毎日	数日に 1回	週1 程度	月1 程度	年数回 程度
1) 一緒に散歩などに出かける	32.4	12.1	7.6	4.7	5.1
2) 一緒に旅行や遊びなどに出かける	4.3	4.1	6.8	10.5	20.9
3) ペット美容院などに連れて行く	3.3	2.1	3.3	18.3	18.3
4) 動物病院に検診や治療に行く	3.1	2.5	4.1	17.0	57.1
5) ペットに話しかける	83.8	6.6	4.3	1.2	0.6
6) ペットとスキンシップをする	84.8	6.2	3.5	2.7	0.2
7) ペットとおもちゃなどを用いて遊ぶ	50.7	20.3	9.0	5.3	3.3
8) 同じ布団（ベッド）で寝る	35.5	10.7	6.8	3.9	5.1
9) いろいろしている時などにペットにあたる	2.7	3.5	3.1	3.1	5.1

表-11 同居家族の有無別, ペットとのコミュニケーション（％，N=487）

6) ペットとスキンシップをする

		ほぼ毎日	数日に1回	N
男性	1人暮らし	84.8	3.0	(33)
	親同居未婚	81.8	9.1	(44)
	配偶者同居	77.4	7.5	(146)
女性	1人暮らし	95.5	-	(22)
	親同居未婚	96.0	2.0	(50)
	配偶者同居	88.6	6.3	(175)

8) 同じ布団で寝る

		ほぼ毎日	数日に1回	N
男性	1人暮らし	42.4	12.1	(33)
	親同居未婚	18.2	9.1	(44)
	配偶者同居	26.0	18.2	(146)
女性	1人暮らし	63.6	18.2	(22)
	親同居未婚	36.0	10.0	(50)
	配偶者同居	42.3	7.4	(175)

表-12 ペットとの親密関係意識（全ペット（N=663）及び犬，ネコ限定（N=487））

「次のようなことを普段感じますか？」 複数飼われている場合は、一番かかわりのあるペットでお答えください。

①そう思う ②どちらかというと思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

	①+② (%)	
	全ペット	犬，ネコ限定
1) ペットはあなたにとってかけがえのない存在である	87.5	95.1
2) 外出しているときペットのことが気にかかる	76.6	83.1
3) 病気になったら最高の治療を受けさせたい	75.7	84.4
4) ペットに恋していると思うことがある	36.4	42.7
5) 人よりもペットという方が癒される	63.9	72.5
6) ペットがいることで家族が仲良くなった	72.7	82.4
7) ペットがいることで友達が増えた	35.4	41.3
8) ペットがいない人生は考えられない	49.6	70.9
9) ペットの世話が面倒くさいと思うことがある	41.8	43.7
10) 飼う前に思っていたこととは違っている	35.4	40.0
11) ペットが思ったようになつかない	19.4	20.3
12) ペットが亡くなる時には落ち込むと思う	86.6	92.5

表-13 ペットとの親密関係意識—犬，ネコの飼い主限定（N=487）

		5) 人よりもペットという方が癒される ①+② (%)	8) ペットがいない人生は考えられない ①+② (%)	N
男性	1人暮らし	78.8	81.8	33
	配偶者同居	67.1	62.3	44
	親同居未婚	85.0	56.8	146
女性	1人暮らし	77.3	90.9	22
	配偶者同居	66.9	75.4	50
	親同居未婚	96.0	76.0	175
男性	夫婦満足	66.4	73.3	116
	不満	70.5	54.1	61
	独身	78.5	64.9	51
女性	夫婦満足	66.7	73.5	132
	不満	79.4	86.2	58
	独身	85.5	73.9	69

3-5. ペットと他の親密関係との比較

ペットの位置づけを示すために、他の親密な関係性を比較した質問をしている。それは、①一緒にいて一番落ち着く対象、②一緒にいて一番楽しい対象、③普段の出来事をよく話す対象、④最も大切に思う対象、⑤あなたのことを一番に考えてくれる対象、⑥何かあった時に助けてくれる対象を、1人（1匹）答えてもらう質問である。

対象者全員の結果は、表-14に、犬、ネコの飼い主限定の結果は表-15に示した。両者を比べてみると、全ての質問で、「そのような対象者はいない」という回答が半減していることが

表-14 親密関係の対象

	配偶者	両親	子ども	その他の 家族 親戚	恋人	友人	美容院や サロンの 店員	スナック やバーの ママや マスター など	キャバク ラやクラ ブのキャ ストなど	ペット	その他	そのよう な人は いない	N
①一緒にいて一番落ち着く	(749) 33.7	(257) 11.6	(275) 12.4	(41) 1.8	(109) 4.9	(110) 4.9	(5) 0.2	(5) 0.2	(5) 0.2	(164) 7.4	(17) 0.8	(488) 21.9	(2225)
②一緒にいて一番楽しい	(494) 22.2	(112) 5.0	(454) 20.4	(58) 2.6	(105) 4.7	(374) 16.8	(9) 0.4	(6) 0.3	(7) 0.3	(137) 6.2	(25) 1.1	(444) 20.0	(2225)
③普段の出来事をよく話す	(844) 37.9	(266) 12.0	(249) 11.2	(60) 2.7	(99) 4.4	(220) 9.9	(8) 0.4	(3) 0.1	(6) 0.3	(45) 2.0	(26) 1.2	(399) 17.9	(2225)
④あなたが最も大切に思える	(562) 25.3	(323) 14.5	(626) 28.1	(55) 2.5	(95) 4.3	(67) 3.0	(11) 0.5	(6) 0.3	(5) 0.2	(98) 4.4	(12) 0.5	(365) 16.4	(2225)
⑤あなたの事を一番に考えてくれる	(764) 34.3	(572) 25.7	(169) 7.6	(46) 2.1	(77) 3.5	(58) 2.6	(10) 0.4	(7) 0.3	(6) 0.3	(39) 1.8	(14) 0.6	(463) 20.8	(2225)
⑥あなたに何かあった時に助けてくれる	(831) 37.3	(557) 25.0	(144) 6.5	(74) 3.3	(70) 3.1	(104) 4.7	(14) 0.6	(5) 0.2	(1) 0.0	(25) 1.1	(14) 0.6	(386) 17.3	(2225)

表-15 親密関係の対象（犬、ネコの飼い主限定）

	配偶者	両親	子ども	その他の 家族 親戚	恋人	友人	美容院や サロンの 店員	スナック やバーの ママや マスター など	キャバク ラやクラ ブのキャ ストなど	ペット	その他	そのよう な人は いない	N
①一緒にいて一番落ち着く	(155) 31.8	(33) 6.8	(50) 10.3	(8) 1.6	(15) 3.1	(17) 3.5	(2) 0.4	(1) 0.2	(2) 0.4	(150) 30.8	(2) 0.4	(52) 10.7	(487)
②一緒にいて一番楽しい	(102) 20.9	(16) 3.3	(91) 18.7	(9) 1.8	(18) 3.7	(71) 14.6	(1) 0.2	(1) 0.2	(0) 0.0	(128) 26.3	(5) 1.0	(45) 9.2	(487)
③普段の出来事をよく話す	(193) 39.6	(46) 9.4	(67) 13.8	(12) 2.5	(20) 4.1	(47) 9.7	(2) 0.4	(0) 0.0	(1) 0.2	(41) 8.4	(4) 0.8	(54) 11.1	(487)
④あなたが最も大切に思える	(132) 27.1	(51) 10.5	(130) 26.7	(11) 2.3	(10) 2.1	(13) 2.7	(2) 0.4	(3) 0.6	(1) 0.2	(90) 18.5	(2) 0.4	(42) 8.6	(487)
⑤あなたの事を一番に考えてくれる	(186) 38.2	(109) 22.4	(39) 8.0	(13) 2.7	(15) 3.1	(11) 2.3	(2) 0.4	(2) 0.4	(3) 0.6	(35) 7.2	(3) 0.6	(69) 14.0	(487)
⑥あなたに何かあった時に助けてくれる	(209) 42.9	(108) 22.2	(33) 6.8	(14) 2.9	(16) 3.3	(21) 4.3	(5) 1.0	(2) 0.4	(0) 0.0	(23) 4.7	(3) 0.6	(53) 10.9	(487)

分かる。特に②「一緒にいて一番楽しい」では、全対象者では、20%の人が「そのような人がいない」に回答しているが、犬、ネコの飼い主は9.2%に半減している。同質問で、ペットと回答する人が26.3%と配偶者20.9%を上回っている。また、⑥何かあった時に助けてくれる対象としてであっても、全対象者中25名の人がペットを選んでいることに注目したい。

続いて、犬、ネコの飼い主限定で、家族・配偶者の有無別、男女別で、②「一緒にいて一番落ち着く」をみてみよう（表-16）。全体でみても、配偶者とペットがほぼ同じ割合いる。1人暮らしの人は、ペットを選んだ人が51.5%（男性）、63.6%（女性）と5割を超える。配偶者ありの人でも、15.1%（男性）、27.4%（女性）と相当の数に上ることが分かる。

また、夫婦の満足度別にみると、これも、夫婦関係が不満であるものに、ペットを選ぶ人がたいへん増えていることが分かる（表-17）。

他の質問に関しても、同様な傾向がみられた。表-18・19で、家族・配偶者の有無別、夫婦満足度別に「一緒にいて一番楽しい対象」を挙げておく。

表-16 家族・配偶者の有無別、男女別「一緒にいて一番落ち着く」—犬、ネコの飼い主限定（%）

	配偶者	両親	子ども	その他の 家族、 親戚	恋人	友人	美容院や サロンの 店員	スナック やバーの ママや マスター など	キャバク ラやクラ ブのキャ ストなど	ペット	その他	そのよう な人は いない	N
N	(155) 31.8	(33) 6.8	(50) 10.3	(8) 1.6	(15) 3.1	(17) 3.5	(2) 0.4	(1) 0.2	(2) 0.4	(150) 30.8	(2) 0.4	(52) 10.7	(487)
男性	(80) 35.1	(20) 8.8	(16) 7.0	(3) 1.3	(7) 3.1	(10) 4.4	(2) 0.9	(1) 0.4	(2) 0.9	(57) 25.0	(1) 0.4	(29) 12.7	(228)
1人暮らし	(0) 0.0	(3) 9.1	(0) 0.0	(1) 3.0	(5) 15.2	(3) 9.1	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(17) 51.5	(0) 0.0	(4) 12.1	(33)
配偶者あり	(76) 52.1	(8) 5.5	(16) 11.0	(2) 1.4	(0) 0.0	(3) 2.1	(1) 0.7	(0) 0.0	(2) 1.4	(22) 15.1	(1) 0.7	(15) 10.3	(146)
親同居独身	(3) 6.8	(9) 20.5	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 2.3	(4) 9.1	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(17) 38.6	(0) 0.0	(10) 22.7	(44)
その他	(1) 20.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 20.0	(0) 0.0	(1) 20.0	(1) 20.0	(0) 0.0	(1) 20.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(5)
女性	(75) 29.0	(13) 5.0	(34) 13.1	(5) 1.9	(8) 3.1	(7) 2.7	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(93) 35.9	(1) 0.4	(23) 8.9	(259)
1人暮らし	(0) 0.0	(1) 4.5	(1) 4.5	(1) 4.5	(2) 9.1	(2) 9.1	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(14) 63.6	(0) 0.0	(1) 4.5	(22)
配偶者あり	(75) 42.9	(2) 1.1	(28) 16.0	(2) 1.1	(1) 0.6	(4) 2.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(48) 27.4	(1) 0.6	(14) 8.0	(175)
親同居独身	(0) 0.0	(10) 20.0	(3) 6.0	(2) 4.0	(3) 6.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(25) 50.0	(0) 0.0	(7) 14.0	(50)
その他	(0) 0.0	(0) 0.0	(2) 16.7	(0) 0.0	(2) 16.7	(1) 8.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(6) 50.0	(0) 0.0	(1) 8.3	(12)

表-17 配偶者の満足度別「一緒にいて一番落ち着く」一犬、ネコの飼い主限定（％）

	配偶者	両親	子ども	その他の 家族、 親戚	恋人	友人	美容院や サロンの 店員	スナック やバーの ママや マスター など	キャバク ラやクラ ブのキャ ストなど	ペット	その他	そのよう な人は いない	N
N	(155) 31.8	(33) 6.8	(50) 10.3	(8) 1.6	(15) 3.1	(17) 3.5	(2) 0.4	(1) 0.2	(2) 0.4	(150) 30.8	(2) 0.4	(52) 10.7	(487)
男性	(80) 35.1	(20) 8.8	(16) 7.0	(3) 1.3	(7) 3.1	(10) 4.4	(2) 0.9	(1) 0.4	(2) 0.9	(57) 25.0	(1) 0.4	(29) 12.7	(228)
満足	(68) 58.6	(6) 5.2	(10) 8.6	(3) 2.6	(1) 0.9	(3) 2.6	(1) 0.9	(1) 0.9	(2) 1.7	(19) 16.4	(0) 0.0	(2) 1.7	(116)
不満	(12) 19.7	(5) 8.2	(6) 9.8	(0) 0.0	(0) 0.0	(3) 4.9	(1) 1.6	(0) 0.0	(0) 0.0	(18) 29.5	(1) 1.6	(15) 24.6	(61)
配偶者無	(0) 0.0	(9) 17.6	(0) 0.0	(0) 0.0	(6) 11.8	(4) 7.8	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(20) 39.2	(0) 0.0	(12) 23.5	(51)
女性	(75) 29.0	(13) 5.0	(34) 13.1	(5) 1.9	(8) 3.1	(7) 2.7	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(93) 35.9	(1) 0.4	(23) 8.9	(259)
満足	(70) 53.0	(2) 1.5	(15) 11.4	(1) 0.8	(3) 2.3	(3) 2.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(31) 23.5	(0) 0.0	(7) 5.3	(132)
不満	(5) 8.6	(3) 5.2	(11) 19.0	(1) 1.7	(1) 1.7	(3) 5.2	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(24) 41.4	(1) 1.7	(9) 15.5	(58)
配偶者無	(0) 0.0	(8) 11.6	(8) 11.6	(3) 4.3	(4) 5.8	(1) 1.4	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(38) 55.1	(0) 0.0	(7) 10.1	(69)

表-18 家族・配偶者の有無別「一緒にいて一番楽しい」一犬、ネコの飼い主限定（％）

	配偶者	両親	子ども	その他の 家族、 親戚	恋人	友人	美容院や サロンの 店員	スナック やバーの ママや マスター など	キャバク ラやクラ ブのキャ ストなど	ペット	その他	そのよう な人は いない	N
N	(102) 20.9	(16) 3.3	(91) 18.7	(9) 1.8	(18) 3.7	(71) 14.6	(1) 0.2	(1) 0.2	(0) 0.0	(128) 26.3	(5) 1.0	(45) 9.2	(487)
男性	(57) 25.0	(7) 3.1	(31) 13.6	(1) 0.4	(8) 3.5	(34) 14.9	(0) 0.0	(1) 0.4	(0) 0.0	(57) 25.0	(1) 0.4	(31) 13.6	(228)
一人暮らし	(0) 0.0	(1) 3.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(3) 9.1	(10) 30.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(14) 42.4	(0) 0.0	(5) 15.2	(33)
配偶者あり	(54) 37.0	(0) 0.0	(31) 21.2	(1) 0.7	(0) 0.0	(14) 9.6	(0) 0.0	(1) 0.7	(0) 0.0	(27) 18.5	(1) 0.7	(17) 11.6	(146)
親同居独身	(3) 6.8	(4) 9.1	(0) 0.0	(0) 0.0	(2) 4.5	(10) 22.7	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(16) 36.4	(0) 0.0	(9) 20.5	(44)
その他	(0) 0.0	(2) 40.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(3) 60.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(5)
女性	(45) 17.4	(9) 3.5	(60) 23.2	(8) 3.1	(10) 3.9	(37) 14.3	(1) 0.4	(0) 0.0	(0) 0.0	(71) 27.4	(4) 1.5	(14) 5.4	(259)
一人暮らし	(0) 0.0	(1) 4.5	(2) 9.1	(2) 9.1	(3) 13.6	(3) 13.6	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(9) 40.9	(1) 4.5	(1) 4.5	(22)
配偶者あり	(45) 25.7	(5) 2.9	(48) 27.4	(5) 2.9	(1) 0.6	(20) 11.4	(1) 0.6	(0) 0.0	(0) 0.0	(39) 22.3	(2) 1.1	(9) 5.1	(175)
親同居独身	(0) 0.0	(3) 6.0	(6) 12.0	(1) 2.0	(4) 8.0	(12) 24.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(21) 42.0	(0) 0.0	(3) 6.0	(50)
その他	(0) 0.0	(0) 0.0	(4) 33.3	(0) 0.0	(2) 16.7	(2) 16.7	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(2) 16.7	(1) 8.3	(1) 8.3	(12)

表-19 配偶者の満足度別「一緒にいて一番楽しい」一犬、ネコの飼い主限定 (%)

	配偶者	両親	子ども	その他の 家族、 親戚	恋人	友人	美容院や サロンの 店員	スナック やバーの ママや マスター など	キャバク ラやクラ ブのキャ ストなど	ペット	その他	そのよう な人は いない	N
N	(102) 20.9	(16) 3.3	(91) 18.7	(9) 1.8	(18) 3.7	(71) 14.6	(1) 0.2	(1) 0.2	(0) 0.0	(128) 26.3	(5) 1.0	(45) 9.2	(487)
男性	(57) 25.0	(7) 3.1	(31) 13.6	(1) 0.4	(8) 3.5	(34) 14.9	(0) 0.0	(1) 0.4	(0) 0.0	(57) 25.0	(1) 0.4	(31) 13.6	(228)
満足	(48) 41.4	(4) 3.4	(20) 17.2	(1) 0.9	(2) 1.7	(9) 7.8	(0) 0.0	(1) 0.9	(0) 0.0	(26) 22.4	(0) 0.0	(5) 4.3	(116)
不満	(9) 14.8	(0) 0.0	(11) 18.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(9) 14.8	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(15) 24.6	(1) 1.6	(16) 26.2	(61)
配偶者無	(0) 0.0	(3) 5.9	(0) 0.0	(0) 0.0	(6) 11.8	(16) 31.4	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(16) 31.4	(0) 0.0	(10) 19.6	(51)
女性	(45) 17.4	(9) 3.5	(60) 23.2	(8) 3.1	(10) 3.9	(37) 14.3	(1) 0.4	(0) 0.0	(0) 0.0	(71) 27.4	(4) 1.5	(14) 5.4	(259)
満足	(43) 32.6	(4) 3.0	(32) 24.2	(4) 3.0	(3) 2.3	(14) 10.6	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(25) 18.9	(2) 1.5	(5) 3.8	(132)
不満	(2) 3.4	(2) 3.4	(15) 25.9	(2) 3.4	(1) 1.7	(9) 15.5	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(20) 34.5	(1) 1.7	(6) 10.3	(58)
配偶者無	(0) 0.0	(3) 4.3	(13) 18.8	(2) 2.9	(6) 8.7	(14) 20.3	(1) 1.4	(0) 0.0	(0) 0.0	(26) 37.7	(1) 1.4	(3) 4.3	(69)

表-20 犬、ネコ別親密意識「人よりもペットという方が癒される」 (%)

	そう思う	どちらかとい うとそう思う	あまりそう思 わない	そう思わない	N
N	(172) 35.3	(181) 37.2	(102) 20.9	(32) 6.6	(487)
男性	(76) 33.3	(84) 36.8	(47) 20.6	(21) 9.2	(228)
犬 + ネコ	(18) 58.1	(9) 29.0	(4) 12.9	(0) 0.0	(31)
犬のみ	(29) 26.9	(42) 38.9	(26) 24.1	(11) 10.2	(108)
ネコのみ	(29) 32.6	(33) 37.1	(17) 19.1	(10) 11.2	(89)
犬ネコなし	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0)
女性	(96) 37.1	(97) 37.5	(55) 21.2	(11) 4.2	(259)
犬 + ネコ	(12) 42.9	(12) 42.9	(4) 14.3	(0) 0.0	(28)
犬のみ	(43) 33.1	(49) 37.7	(31) 23.8	(7) 5.4	(130)
ネコのみ	(41) 40.6	(36) 35.6	(20) 19.8	(4) 4.0	(101)
犬ネコなし	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0)

最後に犬とネコとの親密関係について、比較しておこう。表-20では、「人よりもペットの方が癒される」という質問では、犬、ネコ両方飼っている人が最も多いが、男女とも犬よりもネコに癒やされる人が多いことが分かる。

4. ま と め

現代日本における「ペットの家族化」現象を親密関係の点からみてきた。

時系列的にみることはできないが、ペットとの間で、親しみを感じるなど親密関係を築く人が相当数に上ることが、調査結果から分かる。

それは、独身者（配偶者がいないもの）が増えていること、及び、家族で親密性を感じるものが少なくなっていることを背景とし、純粋な関係を築く一つの対象としてペットが選ばれ、親密性を感じているということが仮説として考えられる。

ネットモニターに対する質問紙調査からみてきたのは、以下のことである。ペット、特に犬やネコの飼い主には、ペットを家族とみなして、親密関係を感じる人が多いこと、そして、独身者の方が、および夫婦関係に不満足な人の方が、ペットと親密関係を築いていることがみて取れた。

そして、ペットの飼育は、特に独身者の孤立感を低下させるという意味で、福祉にも役立つことが分かった。

参 考 文 献

- 江原由美子他 1989『ジェンダーの社会学—女たち／男たちの世界』新曜社
 落合恵美子 1989『近代家族とフェミニズム』勁草書房
 片桐雅隆 2022『人間・AI・動物 ポストヒューマンの社会学』丸善出版
 木戸功 2010『概念としての家族』新泉社
 佐藤嘉倫 2022「AIを備えたロボットは家族の一員になれるか？」佐藤嘉倫他編著『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会 165-182頁
 田淵六郎 1998「『家族』へのレトリカル・アプローチ」『家族研究年報』23号
 匿名希望 2020「AIと性愛—AIと人は親密さを築くことができるか」稲葉振一郎他編『人工知能と人間・社会』勁草書房 170-203頁
 野口裕二 2013「親密性と共同性—「親密性の変容」再考」庄司洋子編『親密性の福祉社会学』東京大学出版会
 松浦優 2021「アセクシュアル／アロマンティックな多重見当識=複数的指向」『現代思想』vol. 49-10, 70-82頁
 山田昌弘 1986「家族定義論の検討」『ソシオロギス』10号
 ——— 1989「家族の定義をめぐって、ネコは家族か？」江原由美子他『ジェンダーの社会学』新曜社
 ——— 1994『近代家族のゆくえ』新曜社
 ——— 2004『家族ペット』サンマーク出版
 ——— 2005『迷走する家族』有斐閣
 ——— 2019「独身者の生活実態」『家族社会学研究』31-2, 日本家族社会学会 150-159頁
 Aries, Phillip 1960=1980『〈子供〉の誕生 アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』杉山光信他訳、みすず書房
 Giddens, A. 1992, *The Transformation of Intimacy*, Stanford Univ. Press.
 Illouz, E. 2007, *Cold Intimacies*, Polity Press.

